2026年３月期
決算説明資料

２０２６年5月14日



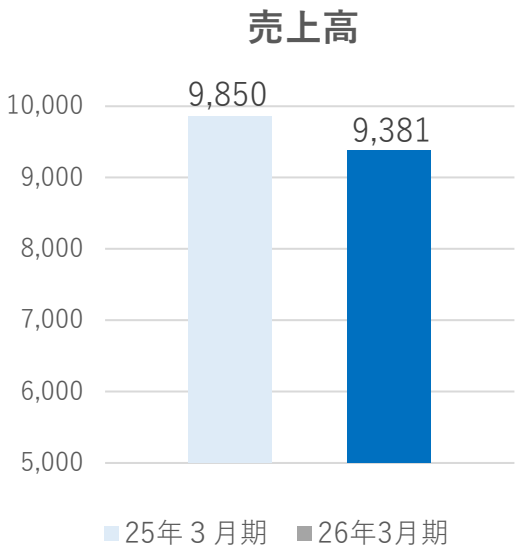
株式会社ニッチツ

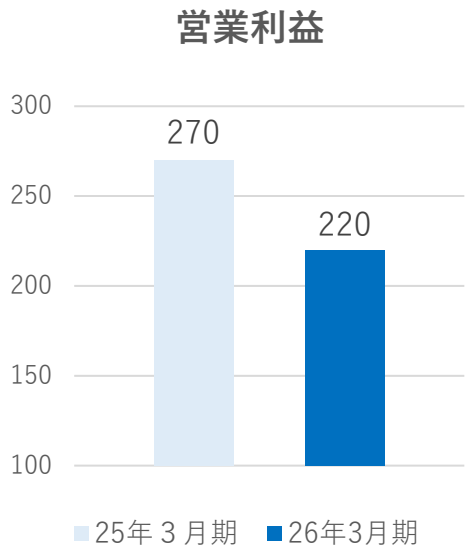
（東証スタンダード市場　証券コード7021）

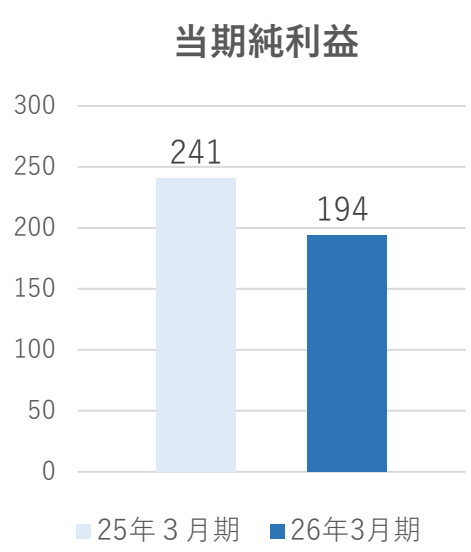
2026年３月期決算サマリー

■ 売上高は小幅減収。利益は輸送費や設備新設に伴う費用増等により減益

（百万円）







■ 27年3月期業績及び配当予想

- **営業利益230百万円**（前期比+10百万円）、 **当期純利益120百万円**（前期比▲74百万円）
- **中間配当15円、年間配当予想30円**（前年同期比▲ 5円）

目　次

- **２０２６年３月期 決算実績** … ３ｐ
  - **・EBITDA及びキャッシュフローの状況** … ４ｐ
  - **・セグメント別業績・概要** … ５ｐ
    - 機械関連事業 … ６ｐ
    - 資源関連事業 … ７ｐ
    - 不動産関連事業・素材関連事業 … ８ｐ
- **２０２７年3月期 連結業績予想** … ９ｐ
- **中計経営計画「シン・ニッチツ２０２５」振り返り** … 10p~14ｐ
- **資本コストや株価を意識した経営実現に向けた対応について** … 15p~17ｐ

2026年３月期　決算実績

○**売上高は**資源関連事業において半導体関連需要が本格的回復に至らず減収となったが、好調な舶用機器部門を中心に機械関連事業が堅調に推移、 全体では**前期比▲4.8%**

○**営業利益は**資源関連事業では高単価製品の販売増により黒字転換。一方で、機械関連事業における不採算工事の発生、輸送費や鋼材自動加工ライン新設に伴う費用等の増加により、全体では**前期比▲18.2%**

○**経常利益は**受取配当金の増加、休廃止鉱山管理費の減少より**前期比+0.9%**

○**当期純利益は**政策保有株式売却益の減少、工場改修等に係る固定資産処分損計上により**前期比▲19.6%**

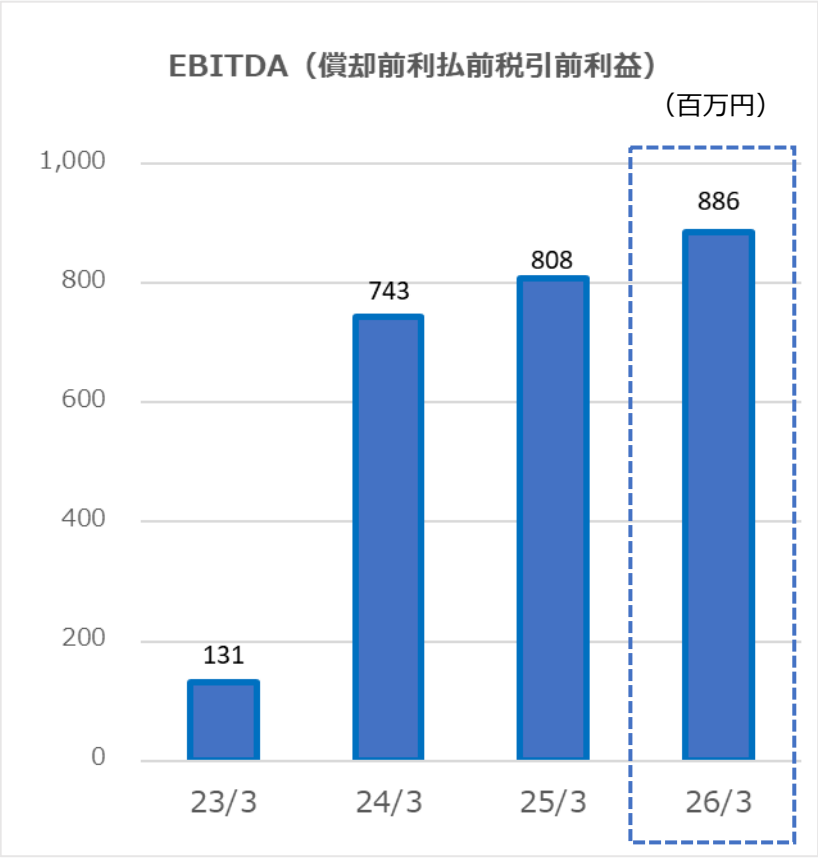
（百万円）	25年３月期	26年3月期	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	9,850	9,381	△ 469	▲ 4.8%
営業利益	270	220	△ 49	▲ 18.2%
経常利益	216	218	1	0.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	241	194	△ 47	▲ 19.6%

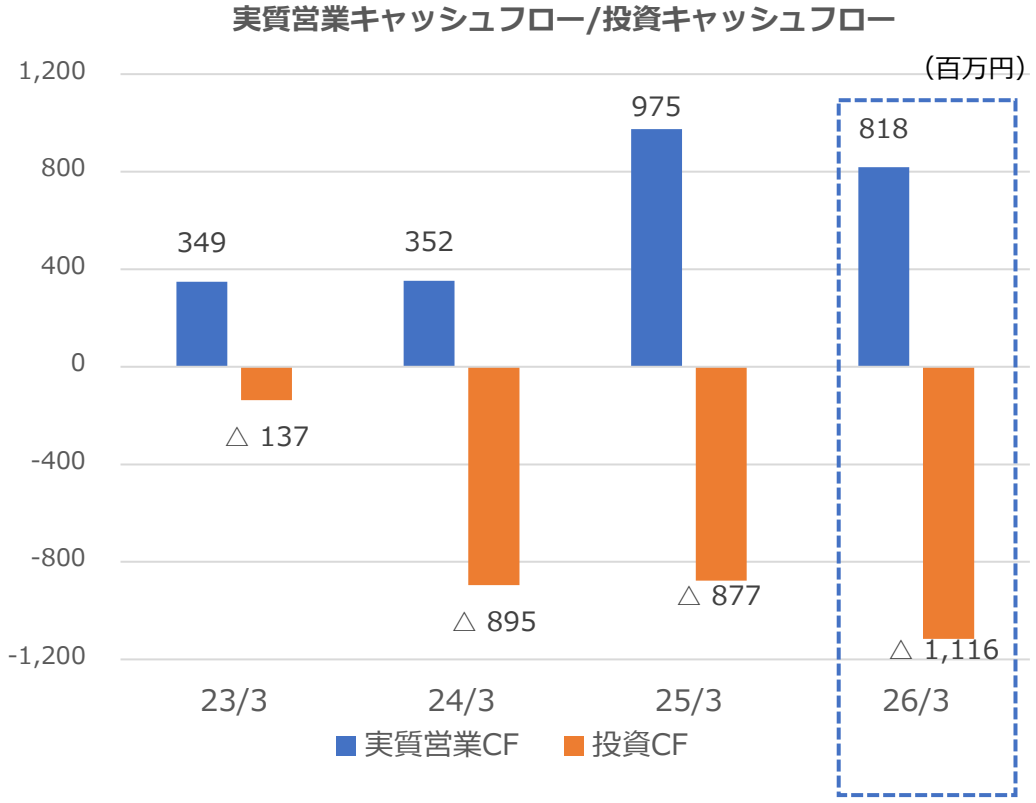
ＥＢＩＴＤＡ及びキャッシュフローの状況

○2026/３期 **EBITDAは886百万円と前期(808百万円)水準を上回る実績**

○2026/３期 **実質営業キャッシュフローは818百万円と前期に続き高水準**

○2026/３期 **投資キャッシュフローは△1,116百万円。大型設備投資の実施により前期比増加**





※実質営業CF＝営業CF－運転資金増減（売上債権・売掛金・棚卸資産・仕入債務）

セグメント別業績・概要

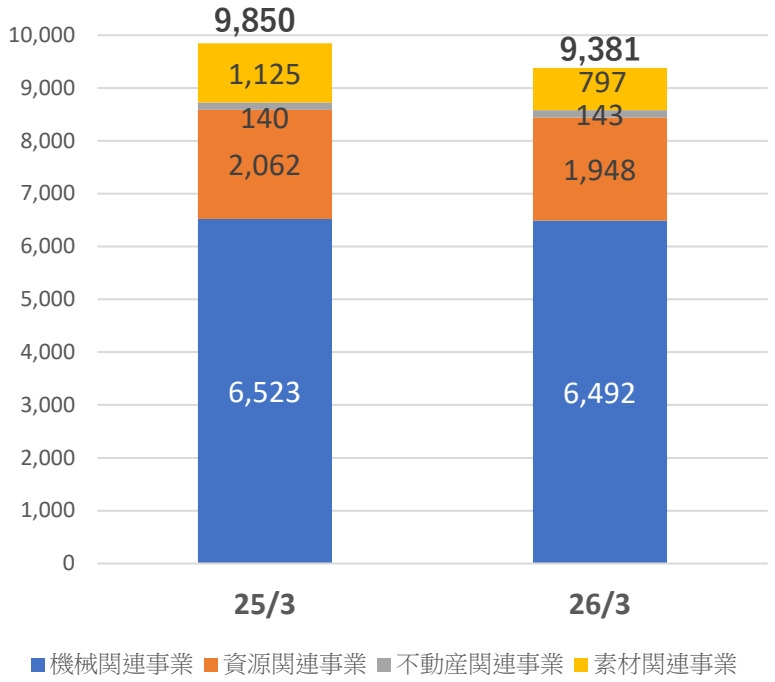
〇機械関連事業：舶用機器の設計・製作、空気予熱器ほかの一般産業機械等の設計・製作、プラント関連機器の製作及び機械装置の据付・施工・監理

〇資源関連事業：ハイシリカ(精製珪石粉等)の製造・仕入・販売

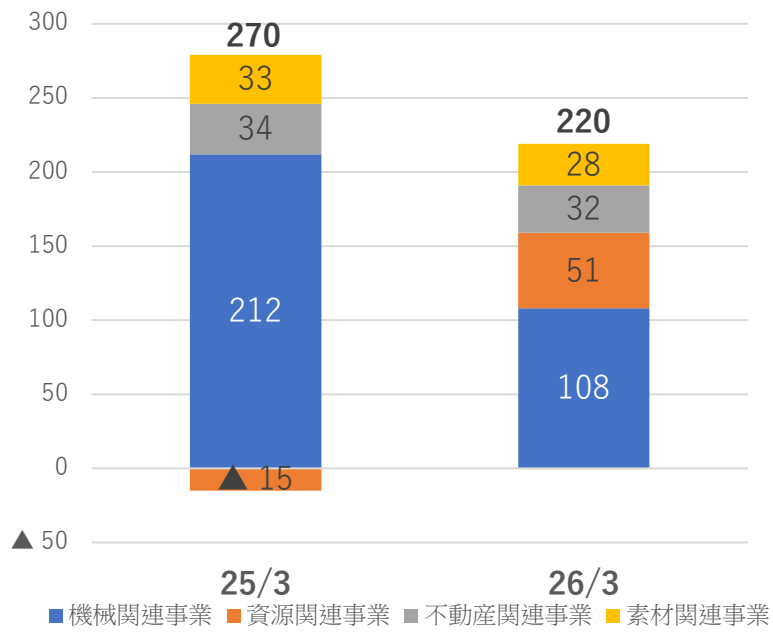
〇不動産関連事業：オフィスビルの賃貸

〇素材関連事業：耐熱塗料の製造・販売及びライナテックス(高純度天然ゴム)の仕入・加工・販売

売上高 （百万円）



営業利益 （百万円）



機械関連事業　業績・概要

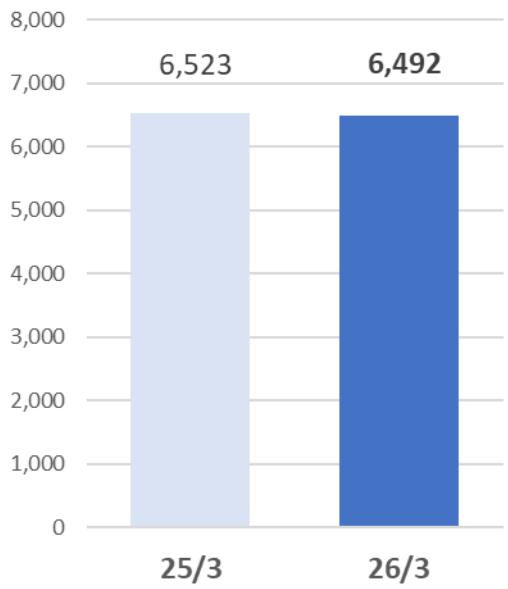
〇舶用機器部門　ハッチカバーは売上伸長、船殻ブロックも引き続き順調に推移。輸送費や鋼材自動加工ライン新設に伴う費用増等により利益圧迫

〇産業機器部門　製鉄機械関連や水力等電力関連中心に売上確保。空気予熱器関連では売上計上期ズレ

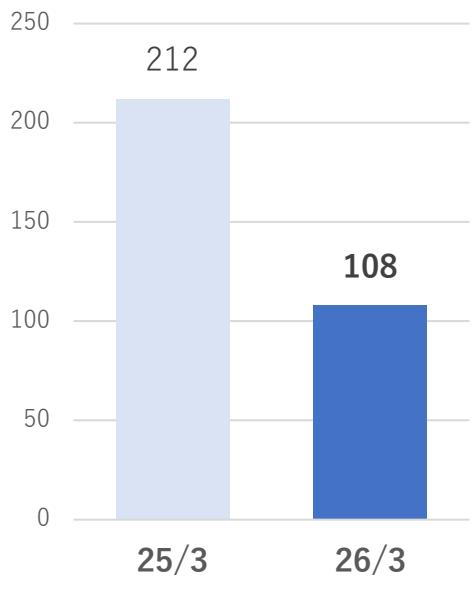
〇工事部門　前期大型工事が剥落、不採算工事も発生

売上高　6,492百万円（前期比▲0.5%）
営業利益　108百万円（前期比▲49.1%）

売上高　（百万円）



営業利益　（百万円）



〇松浦工場　鋼材の自動加工ライン新設
（2025年5月稼働開始）



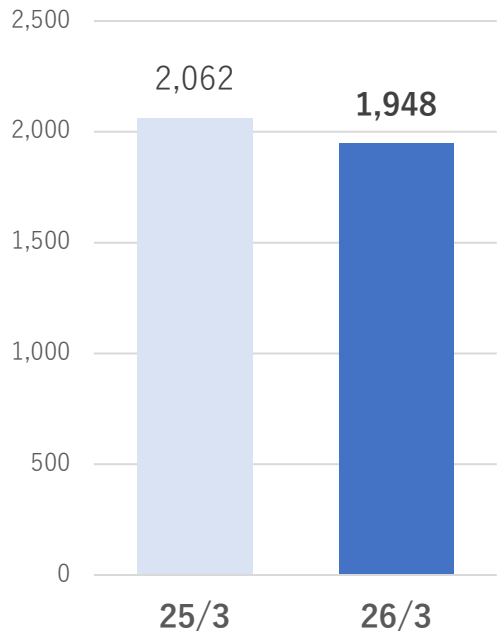
資源関連事業　業績・概要

○ハイシリカ（精製珪石粉等）部門

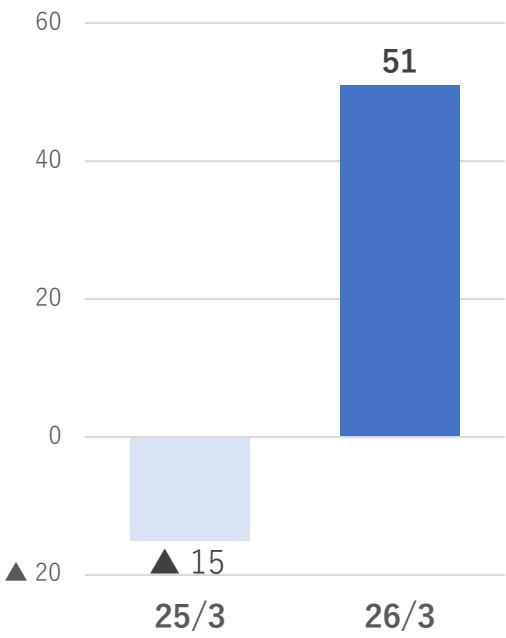
液晶関連や特殊ガラス用途、海外需要の取り組みが図れた一方、主力の半導体封止材用途や光学関連需要が盛り上がりに欠け、半導体関連向けガラスの需要鈍化により減収となるも、高単価製品の販売増により収支は改善、前年同期の赤字から黒字転換

売上高　1,948百万円（前期比▲5.5%）
営業利益　51百万円（黒字転換）

売上高



営業利益



○江迎工場　ジェットミル更新



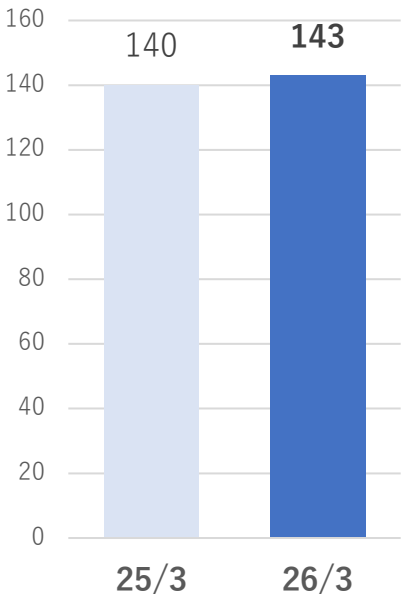
不動産関連事業|素材関連事業　業績・概要

○不動産関連事業

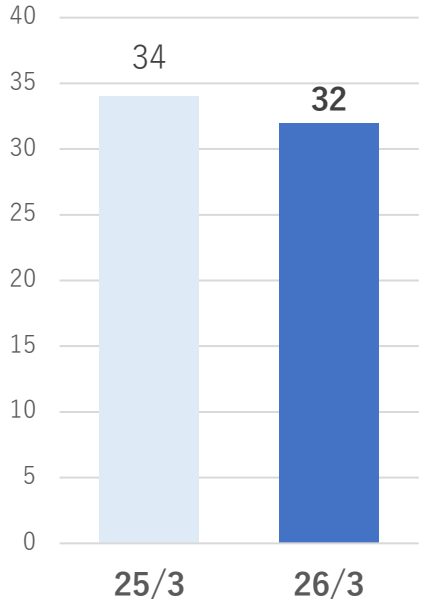
賃貸ビルの稼働状況が順調に推移した一方、メンテナンス工事は計画的に増加

売上高　143百万円（前期比+2.2%）
営業利益　32百万円（前期比▲4.5%）

売上高　（百万円）



営業利益　（百万円）

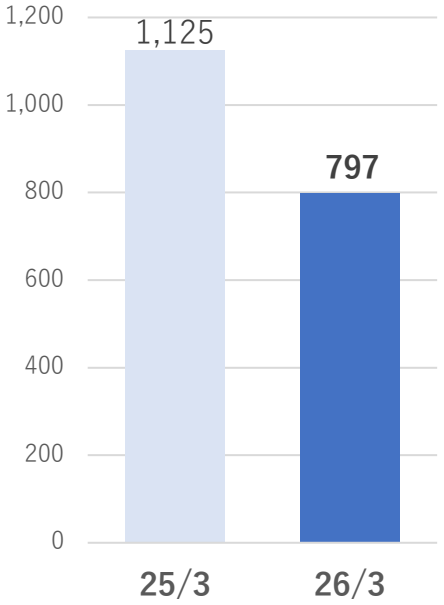


○素材関連事業

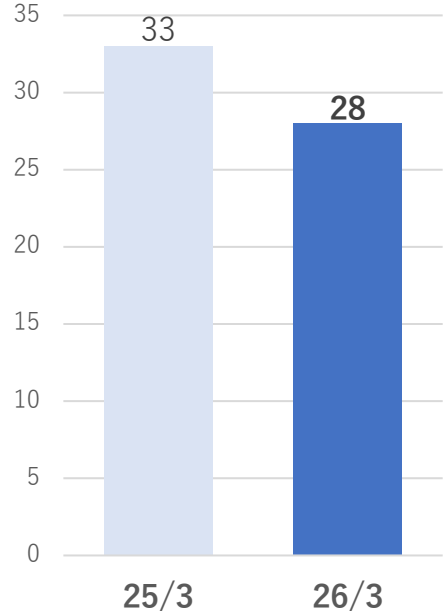
耐熱塗料部門は工業用が低調に推移したことに加え、主力の設備用も期末にかけて失速
ライナテックス(高純度天然ゴム)関連部門は大型案件の売上剥落するも、小口案件の積み上げ奏功

売上高　797百万円（前期比▲29.1%）
営業利益　28百万円（前期比▲14.2%）

売上高　（百万円）



営業利益　（百万円）

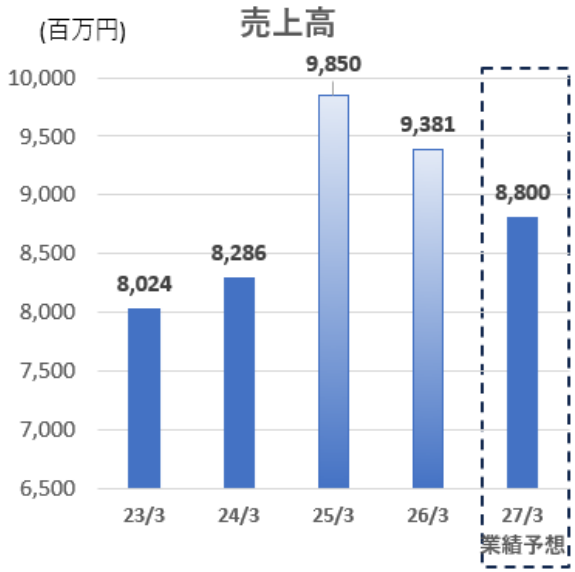


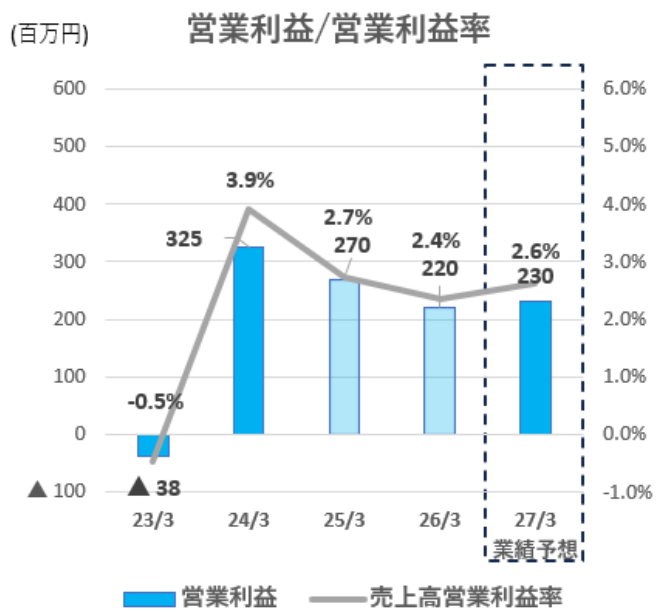
2027年3月期　連結業績予想

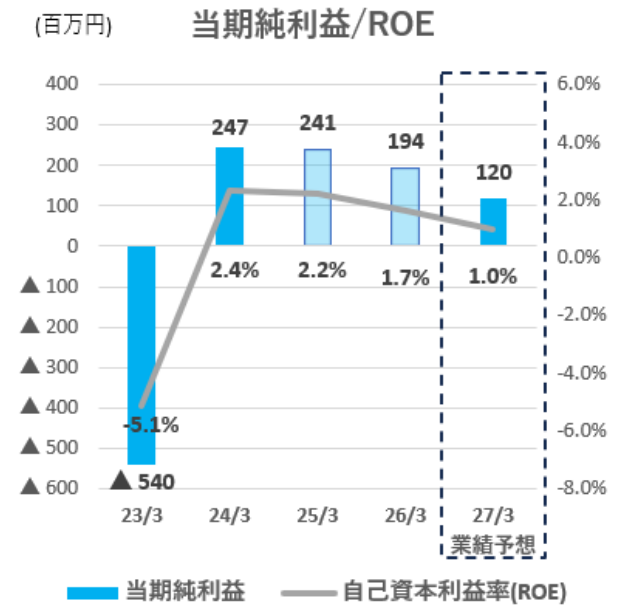
○27/3期連結業績予想は売上高8,800百万円、営業利益230百万円、当期純利益は120百万円、ROE1.0%。

○機械関連事業の舶用機器部門は、船殻ブロックが堅調を維持する一方で、ハッチカバーはやや低調に推移する見込み。産業機器部門では重電・製鉄機械関連で一定の受注を確保済み。資源関連事業(ハイシリカ部門)については、主力の半導体封止材関連用途及び半導体関連向けガラスとも需要回復の遅れを見込む。

○「シン・ニッチツ2025」に続く新たな経営計画については、極めて不透明かつ流動的な事業環境にあって、その動向を十分に見極めつつ、策定を図る。







中期経営計画「シン・ニッチツ２０２５」振り返り①　経営指標（KPI）

○「シン・ニッチツ2025」策定時と比較して、売上高については機械関連事業では、国内造船所の好調な受注環境を背景にほぼ想定通り。一方で、資源関連事業(ハイシリカ部門)では、半導体市場の需要回復の鈍さより想定を大きく下回る

（ご参考）機械関連事業売上高　4,743百万円(23年3月期) ⇒ 6,492百万円(26年3月期)
資源関連事業(ハイシリカ部門)売上高　2,112百万円(23年3月期) ⇒ 1,948百万円(26年3月期)

○営業利益については、機械関連事業は利益率改善が進まず。ハイシリカ部門では売上計画の未達を主因に利益計画も未達

「シン・ニッチツ２０２５」(23年度から25年度)

（単位：百万円）

		2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 当初計画	2025年度 実績
	売上高	8,024	8,286	9,850	9,700	9,381
収益性	営業利益	▲ 38	325	270	500	220
	売上高営業利益率	-0.5%	3.9%	2.7%	5.2%	2.4%
	当期純利益	▲ 540	248	242	300	194
資本効率	自己資本利益率(ROE)	-5.1%	2.4%	2.2%	3%	1.7%
	投下資本利益率(ROIC)*1	-3.0%	2.6%	1.7%	3%	1.3%
財務健全性	自己資本比率（%）	69%	70%	70%	70%	71%

※1：ROIC＝税引き後営業利益÷投下資本＝（営業利益－法人税等）÷投下資本（有利子負債＋純資産）

「シン・ニッチツ２０２５」振り返り② キャッシュフローの状況

○実質営業キャッシュフローと潤沢な手元資金の活用に基づき、積極的な設備投資を実施。
○株主還元については、配当による株主還元と自己株取得による資本構成適正化を基本とし、株主還元水準の安定的向上を図る

実質営業キャッシュフロー※1
３年間累計
2,166百万円

＋

現預金等手元資金活用
1,458百万円

設備投資実績３年間累計
（完成ベース）
3,220百万円

株 主 還 元 ３年間累計

配当金	205百万円
自己株式取得※2	199百万円

※1 実質営業CF＝営業CF－運転資金増減（売上債権・売掛金・棚卸資産・仕入債務）
※2 株式給付信託（BBT）への追加拠出を含む

「シン・ニッチツ２０２５」振り返り③　生産設備への集中投資

生産設備への集中的な積極投資による競争力向上

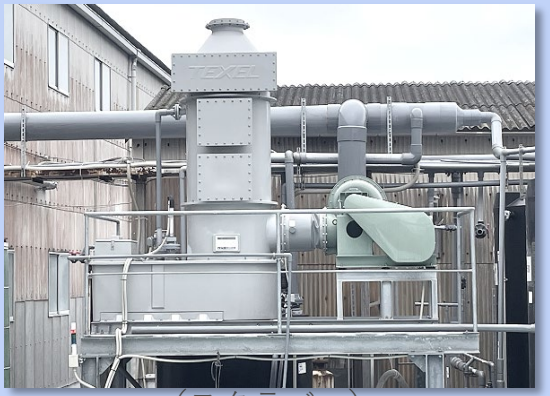
・この３年間で３０億円を上回る設備投資を実施
・松浦工場（機械関連）にて60㌧ジブクレーン更新、鋼材の自動加工ライン新設外
・江迎工場（資源関連）新型高性能ミル導入外



（60㌧ジブクレーン）



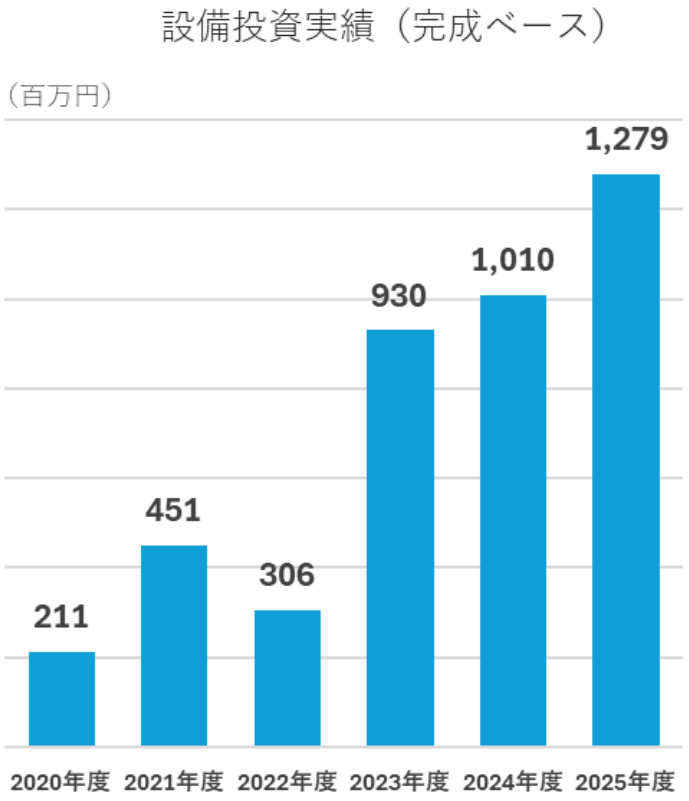
（ＮＣプラズマ切断機）



（スクラバー）



（鋼材自動加工ライン）



「シン・ニッチツ２０２５」振り返り④　人財への投資加速

人財への投資（採用・育成・福利厚生制度の充実）を加速。社員の働きがい向上と当社グループの競争力向上を目指す

１．新事務所棟(松浦工場)



２．当社紹介ツールの拡充

①Instagram、Youtubeの運用

Instagram
https://www.instagram.com/nitchitsu/

各拠点の社員が業務の紹介や当社のイベント、日常などを投稿

Youtube
https://www.youtube.com/@NITCHITSU.CO.LTD.

当社の紹介、ＣＭなどの動画を投稿

②CM制作・放映開始

採用活動と認知度向上を目的としてCM制作。2025年4月より長崎県内にて放映開始



※当社Youtube、Instagramにも掲載中

３．採用体制の拡充および福利厚生制度の充実

・事業本部横断の人事・採用専担者を設置する等、採用体制拡充
・借上げ社宅制度・奨学金返還支援（代理返還）制度導入
・従業員持株会奨励金引上げ（奨励金率　５％ ⇒ １０％）
・従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度導入

「シン・ニッチツ２０２５」振り返り⑤　経営基盤の強化

経営の透明性・監督機能の強化

①　社外取締役の増員

②　女性取締役選任による取締役会の多様性確保

③　執行役員制度の見直し

・２０２５年６月株主総会以降、監督と執行の役割について一層の明確化を図るとともに、業務執行機能を強化するため、役付執行役員について見直し

①、②、③により２０２６年６月株主総会後、独立社外取締役の選任比率は43%へ

（２０２２年６月株主総会後の独立社外取締役選任比率は22%）

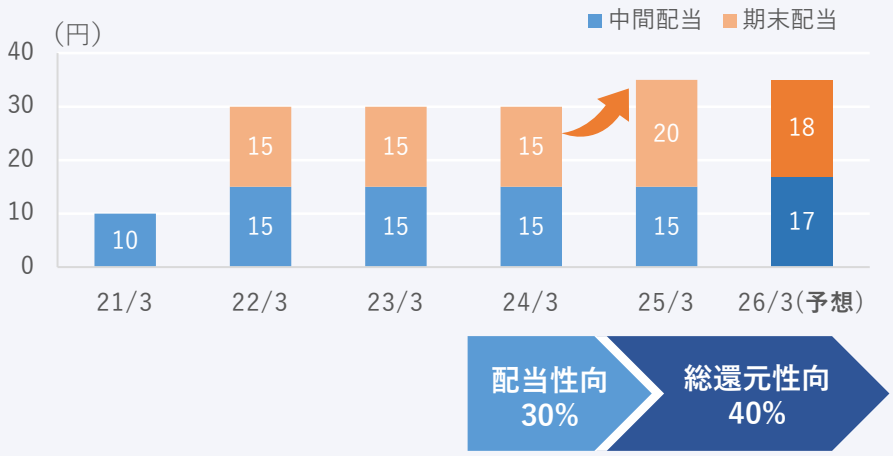
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について①

これまでの取り組み

① 株主還元強化（2024年11月11日公表）

1. 配当による株主還元と自己株取得による資本構成適正化を基本とし、株主還元水準の安定的向上を図る
2. 総還元性向40%を目安とし、中期的なFCFの見通しから、株主還元水準を判断する
3. 自己株取得は投資案件や株価の状況等を総合的に勘案する

	従前	現在
方針	配当による株主還元が基本	配当による株主還元と自己株取得による資本構成適正化を基本
株主還元指標	配当性向	総還元性向
同　水準	30%	40%



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について②

これまでの取り組み

② 株主優待制度の導入（2024年11月公表）

保有株式数	優待内容
100株～	1,000円分のQUOカード

総株主数（2026/3末）	24/3末比+15.1%

③ ROE・ROIC目標設定

「シン・ニッチツ２０２５」（2023年度～2025年度）は、
2027年度ROE５％（ROIC５％）、2030年度ROE８％を目指すための基盤強化期間と位置付け

④ 株式報酬制度

取締役等の業績向上に対する貢献意欲を一段と高めることを目的として、「シン・ニッチツ2025」に掲げる業績目標に連動して給付水準が決定される

業績連動を織り込んだ 株式報酬制度 に変更（2023年6月第98回定時株主総会決議）

⑤ 従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度導入（2024年5月公表）

ニッチツ従業員持株会を通じて譲渡制限付株式を当社グループの従業員に対して付与するインセンティブ制度を導入

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について③

株価、出来高、PBR、ROEの推移

〇株価は22年度末から７７％上昇、25年度末は2,228円

〇出来高は22年度より約８割増加

〇ＰＢＲは継続して１倍を下回る水準、ＲＯＥは２％前後にとどまる

⇒ 「資本コストや株価を意識した経営の実現」に向けたこれまでの取り組みを継続しつつ、設備投資による生産性向上を実現して、企業価値向上を目指す。

	２２年度	２３年度	２４年度	２５年度
株価（年度末）	1,256円	2,042円	1,710円	2,228円
出来高（年度合計）	831,500株	1,081,400株	491,700株	1,491,500株
１株当たり純資産（年度）	4,937円	5,441円	5,717円	6,233円
PBR（年度末）	0.25倍	0.37倍	0.30倍	0.36倍
自己資本利益率(ROE)	△5.1%	2.4%	2.2%	1.7%

本資料に関してのご注意

本資料は、特定の商品の販売やサービスの提案、勧誘、または営業活動を意図したものではなく、情報提供を目的としています。

なお、本資料は、金融商品取引法や投資信託、投資法人法令に関する法律、東京証券取引所関連の暫定規程、その他法令や規則に基づく正式な開示資料や報告書ではありません。

また、本資料に掲載している将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいています。 そのため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

NITCHITSU

お問い合わせは、
当社ＨＰ「お問い合わせフォーム」よりお願いいたします
https://www.nitchitsu.co.jp/contact/